

# 古河電池の歩み

西暦	和暦	古河電池	内外の動き	技術史（主に日本）
1911	明治44	・古河電気工業(株)が横浜電線製造(株)と呼称の頃、鉛蓄電池の研究に着手。		
1914	大正3	・古河電気工業(株)が兵庫県尼ヶ崎市の電池製作所を設立、鉛蓄電池の製造を開始。	第一次世界大戦始まる	
1937	昭和12	・事業拡充のため工場を現在の横浜市保土ヶ谷区に移転。	日中戦争始まる	
1950	昭和25	・古河電気工業(株)より電池製作所の事業を継承し、新たに古河電池(株)として発足。	朝鮮戦争勃発	
1951	昭和26	・米国最大の電池メ-カ-、グ-ルド社と鉛蓄電池の技術援助契約を締結。	マッカーサー解任	民間ラジオ放送開始 自動車用蓄電池のJIS制定
1952	昭和27	・わが国で最初の低温性能の優秀な耐寒式蓄電池の実用化に成功。 ・ガスフィルターを装着したガラス槽入密閉型据置蓄電池をわが国で初の実用化に成功。 ・統計的品質管理の実施成果が特に顕著であると認められデミング賞制定後、第2回目に受賞。	皇居前メーデー事件 サンフランシスコ講和条約締結	電電公社発足 NHKテレビ放送開始
1953	昭和28	・輸出入、二輪車用その他特殊用途に用いる初充電不要の即用式蓄電池の工業化に成功。	ソ連、最初の水爆実験	テレビ本放送開始
1954	昭和29	・二輪車用蓄電池のスチロール電槽の工業化に成功。 ・工場標準化優良工場として工業技術院賞を受賞。	ビキニ水爆第5福龍丸被爆	戦後初の地下鉄開通 第1回全日本モーターショー開催
1955	昭和30	・高度の製造技術を要する航空機用蓄電池の工業化に成功。防衛庁技術研究所の型式試験に合格。 ・古河式化学強化セパレーターをわが国において初の実用化に成功。	神武景気始まる	世界初のトランジスタラジオ発売
1956	昭和31	・古河クラッド式極板(編組縦系補強方式極板)電気車蓄電池の量産化に成功。 ・日本南極観測隊超耐寒即用式蓄電池を生産、同隊の南極大陸越冬において、超耐寒性能の優秀性が立証される。 ・T-33Aジェット機特殊蓄電池の防衛庁技術研究所の認定試験に合格。	国際連合に加盟 南極観測船宗谷出発	科学技術庁発足
1957	昭和32	・合成樹脂成形工場を設立、各種合成樹脂成形製品の製造を開始。 ・1,000アンペア級の大容量ガラス槽入密閉型据置蓄電池の製造を開始。 ・F-86Fジェット戦闘機及びT-33Aジェット練習機両機種の部品の防衛庁指定の工場認定に合格。	なべ底不況始まる	国産ロケット1号成功 日本初の原子炉に原子の火灯る(東海村)
1958	昭和33	・古河クラッド式極板(編組縦系補強方式極板)が、初めてグールド社製品の部品として大量に輸出。		関門海底トンネル開通 東京タワー完成
1959	昭和34	・1,000アンペア時級の大容量電気車用蓄電池の量産を開始。 ・アルカリ電池メーカー本多電機(株)と業務提携を締結し、ポケット式アルカリ蓄電池の販売を開始。 ・銀・コバルト入極板を開発、耐蝕性の強大な長寿命の自動車用、二輪車用シムコバット蓄電池の実用化に成功、量産を開始。	岩戸景気始まる 伊勢湾台風 ソ連、ロケット月着陸	自動車用電池が6Vから12Vへ移行始まる
1960	昭和35	・自動車用蓄電池専用の新工場を建設、新車向自動車用蓄電池の量産を開始。 ・米国のアルカリ蓄電池メ-カ- ソト-ン社と焼結式アルカリ蓄電池の技術援助契約を締結。 ・中容量以下の据置用鉛蓄電池にAS樹脂電槽を実用化。	日米安全保障条約	世界初のトランジスタテレビ発売 カラーテレビ本放送開始 レーザー発信に成功(米国)
1961	昭和36	・本多電機(株)と資本提携をし、坑内安全灯を除く全てのポケット式アルカリ蓄電池の販売を開始。 ・東京証券取引所市場第二部に株式を公開。	ソ連、有人宇宙船打ち上げ ドイツ、東西ベルリンの壁を構築	
1962	昭和37	・焼結式アルカリ蓄電池専用工場を建設し、ベント形及びシール形焼結式アルカリ蓄電池の量産を開始。	キューバ危機	自動車保有台数500万台突破
1963	昭和38	・1,000アンペア時級の大容量プラスチック槽入密閉型据置蓄電池を開発。 ・日本で初の原子力発電を行う日本原子力発電(株)東海発電所に原子炉操作及び非常電源用として蓄電池設備を納入。 ・F-104Jジェット戦闘機部品の防衛庁認定試験に合格。	ケネディ暗殺	日米間衛星テレビ成功 初の原子力発電に成功
1964	昭和39		東京オリンピック開催	東海道新幹線開業
1965	昭和40	・チュドル式据置鉛蓄電池の生産中止を決定。	ベトナム戦争本格化	朝永振一郎、ノーベル物理学賞受賞

西暦	和暦	古河電池	内外の動き	技術史(主に日本)
1966	昭和41	<ul style="list-style-type: none"> <li>・DC構造(ダイレクトコネクション)による始動性能の格段に優れたハイダッシュ自動車用蓄電池の実用化に成功。</li> <li>・IC構造(インターセルコネクション)方式のモノバック自動車用蓄電池を開発、量産を開始。</li> <li>・東京大学と科学技術庁より人工衛星用蓄電池の研究依頼を受け、これを完成。</li> <li>・初の国産御料車用蓄電池の製造依頼を受け、これを謹製。</li> </ul>	航空機事故多発 いざなぎ景気始まる 日本の総人口1億人突破	四輪車生産台数世界第3位
1967	昭和42	<ul style="list-style-type: none"> <li>・トランジスターを採用した交直自動切替の無接点式小型電源装置を開発。</li> </ul>	欧州共同体( EC )発足	自動車保有台数1000万台突破、自動車生産台数世界第2位、原研高速増殖炉点火
1968	昭和43	<ul style="list-style-type: none"> <li>・東京理科大学加藤研究室との共同研究により、空気・アルミニウム電池を開発。</li> <li>・コラム電池の短時間充電を可能とするクーロメーターを開発。</li> <li>・焼結式PVCセパレーターの製造技術を確認、量産を開始。</li> <li>・鉛蓄電池を駆動電源とした電気自動車富士電機製造(株)との共同研究により試作に成功。</li> </ul>	日本GNP世界第二位 3億円強奪事件 全国大学で紛争多発	日本初心臓移植 霞ヶ関高層ビル完成
1969	昭和44	<ul style="list-style-type: none"> <li>・純国産技術により、クーロメーターを応用した完全無保守のRSA直流電源装置を開発。</li> <li>・セル間の接続を冷間圧着し、電槽の封口を熱圧着した熱融着電槽(ポリプロピレン)の自動車用蓄電池の実用化に成功、量産を開始。</li> <li>・ブランドマークを<b>FB</b>と改める。</li> <li>・全密閉方式の据置用鉛蓄電池「キングシール」を開発、量産を開始。</li> </ul>	アポロ11号月面着陸	東名高速道路開通 ポケットベル販売開始 原子力船むつ進水
1970	昭和45	<ul style="list-style-type: none"> <li>・水の注入で使用できる注水即用式自動車用蓄電池の実用化に成功、量産を開始。</li> <li>・栃木県今市市に自動車用鉛蓄電池組立専用工場を建設、生産を開始。</li> </ul>	大阪万博開催 日航機よど号ハイジャック事件	低伝送損失光ファイバーの開発発表(米国) 初の人工衛星「おおすみ」打ち上げ
1971	昭和46	<ul style="list-style-type: none"> <li>・非常照明設備、排煙設備等の防災設備用電源を開発、量産を開始。</li> <li>・据置鉛蓄電池を密閉化する気相触媒栓を開発、シール形据置鉛蓄電池の量産を開始。</li> <li>・国産科学衛星第1号『しんせい』にセラミックシール完全密閉形ニッケル・カドミウム蓄電池を搭載。</li> <li>・熱融着方式の航空機用アルカリ蓄電池の製品化に成功、量産を開始。</li> </ul>	変動為替相場制採用	初の科学衛星「しんせい」打ち上げ
1972	昭和47	<ul style="list-style-type: none"> <li>・完全シール方式の完全即用式「ハイダッシュドライ」自動車用蓄電池を開発、量産を開始。</li> <li>・東京証券取引所の市場第一部に指定替えとなる。</li> </ul>	札幌オリンピック開催、沖縄日本復帰 グアム島で元日本兵発見、浅間山荘事件	山陽新幹線開業 ・(社)日本蓄電池工業会発足
1973	昭和48	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1年間補水不要・二括注液構造の完全即用式メンテナンスフリー自動車用蓄電池「ハイダッシュサンダー」を開発、量産を開始。</li> </ul>	第一次オイルショック	江崎玲於奈、ノーベル物理学賞受賞
1974	昭和49	<ul style="list-style-type: none"> <li>・液入り充電済と乾式即用式自動車用蓄電池「ハイダッシュドライ」を開発、量産を開始。</li> <li>・大和プラスチック工業(株)(合成樹脂成型品製造の子会社)を吸収合併。</li> </ul>	戦後初のマイナス成長	自動車輸出世界第1位
1975	昭和50	<ul style="list-style-type: none"> <li>・二括注液構造、自動液面停止装置を備えた即用式自動車用蓄電池「ハイダッシュスター」を開発、量産を開始。</li> <li>・電気抵抗値の小さい薄形、微多孔のセパレーターを開発、高始動性能化した自動車用蓄電池を「F」シリーズとして量産を開始。</li> </ul>	沖縄海洋博開催	
1976	昭和51	<ul style="list-style-type: none"> <li>・弊社製蓄電池を搭載した、宇宙開発事業団初の実用電離層観測衛星「うめ」の打ち上げが成功。</li> </ul>	南北ベトナム統一	
1977	昭和52	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特殊合金極板を採用した補水不要のメンテナンスフリー自動車用蓄電池「ハイダッシュMFZ」を開発、量産を開始。</li> <li>・電気自動車用の駆動電源を目的としたニッケル・亜鉛蓄電池を古河電気工業(株)と共同研究により開発に成功。</li> </ul>	北海道、有珠山爆発	
1978	昭和53	<ul style="list-style-type: none"> <li>・耐蝕性の特殊カルシウム合金極板を採用した補水不要のメンテナンスフリー自動車用蓄電池「カルダッシュ」を開発、量産を開始。</li> <li>・福島県いわき市に自動車用蓄電池専用工場を建設、生産を開始。</li> <li>・電気車用蓄電池の補水作業を簡易化するためのファンタッチ液口栓を開発。</li> <li>・電解液比重・液面検知装置を開発。</li> </ul>	宮城県沖地震	成田空港開港
1979	昭和54	<ul style="list-style-type: none"> <li>・通産省の電気自動車普及計画に基づき、電気自動車用の高出力鉛蓄電池を開発、日本電動車輦協会へ納入。</li> <li>・自動車用鉛蓄電池基板の打抜法による製造技術を古河電気工業(株)と共同研究により確立。</li> <li>・自動車用蓄電池「ハイダッシュMFZ」をシリーズ化し、量産を開始。</li> </ul>	東京サミット開催 第二次オイルショック	本四架橋第1号開通 X線天体観測衛星「はくちょう」打ち上げ
1980	昭和55	<ul style="list-style-type: none"> <li>・東北・上越新幹線用に無給水形アルカリ蓄電池「AB60S-68形」の納入開始。</li> <li>・東京大学宇宙研究所の試験衛星「たんせい4号」に角型蓄電池を搭載。</li> </ul>	モスクワオリンピック日本不参加 イラン・イラク戦争勃発	自動車生産台数世界第1位(1000万台突破)
1981	昭和56	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自動車用鉛蓄電池基板の打抜法によるパンチング極板を採用した自動車用蓄電池「カルダッシュ-P」を開発、量産を開始。</li> <li>・据置鉛蓄電池の陰極吸収式シール形を開発。</li> </ul>	神戸ポートアイランド博開催 スペースシャトル「コロンビア」打ち上げ	福井謙一、ノーベル科学賞受賞 光ファイバー商用試験開始

西暦	和暦	古河電池	内外の動き	技術史(主に日本)
1982	昭和57	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特殊カルシウム合金極板採用の「カルダッシュ」、高始動性能の「ハイダッシュFF」の自動車用蓄電池を開発、量産を開始。</li> <li>・いわき工場に即用化成工場を完成。</li> <li>・即用式の「ハイダッシュMFD」の自動車用蓄電池を開発、量産を開始。</li> </ul>	<p>東京赤坂ホテルニュージャパン火災</p> <p>羽田沖、日航機墜落事故</p>	東北・上越新幹線開業
1983	昭和58	<ul style="list-style-type: none"> <li>・機能重視の新設計、自動車用蓄電池「ハイダッシュ・サンダーMF」の充電済み及び乾式即用蓄電池を開発、量産を開始。</li> <li>・今市工場の自動車用鉛蓄電池の生産設備一貫化工事が完成し、量産を開始。</li> </ul>	<p>ソ連、大韓航空機撃墜事件</p> <p>東京ディズニーランド開園</p>	初の実用衛星「さくら2号a」打ち上げ
1984	昭和59	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中国福建省建陽鉛蓄電池工場へ自動車用バッテリープラントを輸出。</li> <li>・太陽光発電システム用蓄電池を開発。</li> <li>・四国電力(株)西条発電所(愛媛県)の太陽光発電設備に特殊クラッド式蓄電池及び蓄電池監視装置を納入。</li> <li>・二輪車用密閉形MFバッテリーの量産開始。</li> <li>・鉄道車両用に小型軽量の焼結式ニッケル・カドミウム蓄電池「AH-MSシリーズ」を商品化。</li> </ul>	<p>日本全国、異常寒波</p> <p>グニコ・森永事件</p>	衛星放送開始
1985	昭和60	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文部省宇宙科学研究所ハレー彗星探査機「さきがけ」に宇宙開発用角型密閉ニッケル・カドミウム蓄電池を搭載。</li> <li>・極板格子に耐蝕性の特殊鉛カルシウム合金を用いた自動車用蓄電池「ダッシュエクストラ」を開発、量産を開始。</li> <li>・パキスタンのABC社と自動車用蓄電池の生産技術と製造設備を供与する契約を締結。</li> <li>・インドのスタンダード・バッテリー社と自動車用蓄電池の生産技術援助契約を締結。</li> </ul>	<p>電電公社民営化</p> <p>専売公社民営化</p> <p>つくば科学万博開催</p> <p>日航機群馬県山中に墜落</p>	<p>国産初のハレー彗星探知機「さきがけ」打ち上げ</p> <p>本州四国架橋大鳴門橋開通</p>
1986	昭和61	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今市針貝地区に、二輪車用蓄電池、小形シール鉛蓄電池と電源機器製品の工場を建設。</li> <li>・福島県いわき市に、開発センター、アルカリ蓄電池工場を建設。</li> <li>・横浜の工場部門を、今市・いわき両事業所へ移転。</li> <li>・メンテナンスフリーの高容量シール形据置鉛蓄電池「MSE」シリーズを発売。</li> <li>・防衛庁向け輸送ヘリコプター(CH-47J)用充電器及びコンバーターのライセンス生産開始。</li> </ul>	<p>スペースシャトル「チャレンジャー」爆発事故</p> <p>ソ連チェルノブイリ原発事故</p> <p>東京サミット開催</p> <p>バブル景気始まる</p>	
1987	昭和62	<ul style="list-style-type: none"> <li>・札幌、福岡両営業所の自社ビルを取得し、不動産賃貸を開始。</li> <li>・汎用小型無停電電源装置(UPS)分野へ本格的に進出。</li> <li>・ムーンライト計画による電力貯蔵用亜鉛・塩素電池の実証評価を実施。</li> <li>・物流改革の端緒として、関東地区にて製品の直送販売を開始。</li> <li>・CI活動の一環として、ブランドマークを現<b>FB</b>に変更。</li> </ul>	<p>円高不況</p> <p>国鉄分割民営化</p>	利根川進、ノーベル医学・生理学賞受賞
1988	昭和63	<ul style="list-style-type: none"> <li>・仙台、広島、金沢、高松各営業所及び郡山に自社ビルを取得し、不動産賃貸を開始。</li> <li>・倉敷、浜松に配送センターを取得し、物流業務を開始。</li> <li>・今市工場にエキスパンド極板製造装置を導入。</li> <li>・高始動性能、長寿命、メンテナンスフリー性能を特長とする自動車用蓄電池「FH、FF、F1」3シリーズを商品化。</li> <li>・北海道を除く直送販売体制を完成。</li> <li>・タイのサイアム・バッテリーと自動車用・二輪車用鉛蓄電池製造に関する技術援助契約を締結。</li> </ul>		<p>瀬戸大橋開通</p> <p>青函トンネル開業</p> <p>東京ドーム完成</p>
1989	平成元	<ul style="list-style-type: none"> <li>・星川駅前のビルを区分所有し、本社及び東京事務所の一部を移転。</li> <li>・米国NASAのスペースシャトル「コロンビア」による実験計画「SEPPAC」用電源電池を受注。</li> </ul>	<p>昭和天皇崩御、消費税3%導入、横浜博開催</p> <p>ベルリンの壁崩壊、中国天安門事件</p>	<p>横浜ベイブリッジ開通</p> <p>国際ISDNサービス開始</p>
1990	平成2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・UPS専用電池として、高出力シール型鉛蓄電池「HHS15」「HHS20」を商品化。</li> <li>・踏切遮断機警報灯を開発し、「シャットライト」の名称で発表。</li> <li>・弊社液式品に比べ、約2倍の寿命性能を有する自動車用蓄電池「Sealed MF」を発表。</li> <li>・宅配車専用電池を開発し、「TTX」シリーズとして「LYDEN」の愛称で発表。</li> <li>・いわき工場に連続鋳造極板製造装置を導入。</li> </ul>	東西ドイツ統一	文部省宇宙科学研究所の月接近衛星「ひてん」打ち上げ
1991	平成3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・共同プロジェクトにより、空港用電動牽引車(TT車)の試作車を開発。</li> <li>・単三型ニッケル・水素電池を開発、発表。</li> <li>・ハンガリーのペリオン社と自動車用鉛蓄電池に関する技術援助契約を締結。</li> <li>・JR東日本に「分岐器開通方向明示灯(ポイント明示灯)」を納入開始。</li> </ul>	<p>湾岸戦争勃発、ソ連解体</p> <p>長崎県、雲仙普賢岳で火砕流発生</p> <p>再生資源の利用の促進に関する法律(リサイクル法)制定</p>	東京、新宿に新都庁完成

西暦	和暦	古河電池	内外の動き	技術史（主に日本）
1992	平成4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自動車用蓄電池「FZ GOLD」「FZ」「FD」シリーズを新発売、主力機種「FZ」シリーズには、画期的な「Fエレメント」構成を採用。</li> <li>・電気工事、電気通信工事、機械器具設置工事の設計、施工、請負を定款に追加。</li> <li>・角型ニッケル・水素電池を開発、発表。</li> <li>・メキシコのAMSA社との自動車用蓄電池製造に関する技術援助契約を締結。</li> <li>・タイのサイアムセメント社との合併で、サイアム・フルカワ・バッテリー社を設立。</li> </ul>	<p>バブル崩壊 スペースシャトル「エンデバー」に日本人飛行士搭乗</p>	
1993	平成5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いわき事業所にニッケル・水素電池工場を建設。</li> <li>・不動産事業部門の効率化を図るため、旭開発(株)を吸収合併。</li> </ul>	<p>日本初のプロサッカー、Jリーグ発足 記録的冷夏(コメ大凶作)</p>	<p>横浜ランドマークタワー完成(日本一の超高層ビル) ・改正リサイクル法でニカド電池が指定される。</p>
1994	平成6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「'94ワールド・ソーラーカー・ラリー・イン・アキタ」にスポンサー初参加。</li> <li>・アイドルストップバス用バッテリーの「比重液面センサー」の量産開始。</li> <li>・JR西日本に「保守用車進路確認装置(電波式ポイント明示灯)」を納入開始。</li> </ul>	<p>記録的猛暑 松本サリン事件</p>	<p>関西新空港開港 初の純国産ロケット打ち上げ</p>
1995	平成7	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「1995ワールド・エコノ・ムーブ」にスポンサー初参加。</li> <li>・自動車用蓄電池「RV / 4WD車用カーバッテリー」を新発売。</li> <li>・自動車用蓄電池「FZ GOLD」「FZ」「FD」シリーズをマイナーチェンジ。</li> <li>・欧州車用、自動車用蓄電池「Mareg」シリーズを新発売。</li> <li>・自動車用バッテリー検索システム「FBバッテリーナビ」を開発。</li> <li>・「'95E.V.Ecorunin SUGO」にスポンサー初参加。</li> <li>・アルカリ特機事業部において、ISO 9001 取得。</li> <li>・マレーシアのセンチュリー社との自動車用電池製造に関する技術援助契約を締結。</li> </ul>	<p>阪神淡路大震災 地下鉄サリン事件 製造物責任法(PL法)施行</p>	<p>東京ビッグサイト完成 高速増殖炉「もんじゅ」初の発・送電</p>
1996	平成8	<ul style="list-style-type: none"> <li>・UPSに最適な長寿命高率放電タイプの小形シール鉛蓄電池「FPXシリーズ」を発売。</li> <li>・弊社支店の市販部門を販社に吸収し、全国7販社体制とする。</li> <li>・ユニット構造で横置き対応のシール形据置鉛蓄電池「FMUシリーズ」を発売。</li> <li>・産業機器・自動車電池事業部において、ISO 9001 取得。</li> <li>・ソーラー用シール鉛蓄電池「SLMシリーズ」を発売。</li> </ul>	<p>病原性大腸菌O-157流行 火星探査機が火星に着陸</p>	
1997	平成9	<ul style="list-style-type: none"> <li>・長寿命タイプのシール形据置鉛蓄電池「FVLシリーズ」を発売。</li> <li>・米国車用、自動車用蓄電池「AM(xシリーズ)」を新発売。</li> <li>・電源システム事業部において、ISO 9001 取得。</li> <li>・第3世代直流電源装置「DP2000シリーズ」を新発売。</li> <li>・通信用高力率形ソフトスイッチング式直流電源装置「DP5000シリーズ」を新発売。</li> <li>・蓄電池の劣化判定を行なうバッテリーハイチェッカー「BIT-2000」を発売。</li> </ul>	<p>消費税5%に引き上げ 金融機関の破綻相次ぐ 地球温暖化防止会議(京都) 香港、中国に返還 東海村動燃再処理工場で爆発事故</p>	<p>東京湾横断道路アクアライン開通 携帯電話・PHS、3,000万台突破</p>
1998	平成10	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自動車用蓄電池「FZ GOLD」「FZ」「FJ」シリーズをモデルチェンジ。</li> <li>・自動車用蓄電池「DIOS」、「SUPER EXTRA」シリーズを新発売。</li> <li>・モノブロック電槽を採用した、ローメンテナンスタイプの鉄道車両用アルカリ蓄電池「MTシリーズ」を発売。</li> <li>・日本初の火星探査機「のぞみ」用として、世界で初めて宇宙用ニッケル・水素電池を開発、搭載される。</li> </ul>	<p>失業率4%突破 毒物混入事件多発 長野冬季オリンピック</p>	<p>明石海峡大橋開通(世界最長のつり橋) 長野オリンピックをWDM中継で放送</p>
1999	平成11	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今市・いわき事業所において、ISO 14001 取得。</li> <li>・小容量ニッケル・水素電池の生産中止。</li> <li>・スタンバイユース用長寿命形の小形シール鉛蓄電池「FLHシリーズ」を発売。</li> <li>・高率放電用制御弁式据置鉛蓄電池「FVHシリーズ」を発売。</li> <li>・いわき工場で連続鋳造2号機が操業。</li> </ul>	<p>トルコ・台湾で大地震発生 ヨーロッパ単一通貨「ユーロ」が発足 東海村で初の核臨海事故 銀行・企業間の業務提携、合併が相次ぐ</p>	<p>初の脳死臓器移植手術実施</p>
2000	平成12	<ul style="list-style-type: none"> <li>・宇宙用リチウムイオン電池技術の確立。</li> <li>・次世代携帯電話用基地局向け電源装置の納入開始。</li> <li>・アイドルストップトラック用バッテリーの「比重液面センサー」の納入を開始。</li> <li>・ホームページを開設。</li> <li>・創立50周年を迎える。</li> </ul>	<p>沖縄サミット開催</p>	<p>携帯電話が契約台数で固定式を突破 白川英樹、ノーベル化学賞受賞</p>